

2018年会計報告

2018年1月1日～2018年12月31日

熱帯森林保護団体

<収入の部>

* 2017年繰越金	¥16,887,068
* 年会費	¥ 1,420,000
* 寄付金（企業・個人）	¥ 9,983,835
* 物販費	¥ 234,100
* 助成金	¥ 4,321,238
（内田エネルギー科学振興財団／セディナ地球にやさしいカード／ 三井物産環境基金／トヨタ環境活動助成プログラム）	
* 利息	¥ 76
計	¥ 32,846,317

<支出の部>

* 現地支援金	¥10,899,555
* 他団体賛同・支援金	¥ 70,000
* 役員費（アルバイト代含む）	¥ 4,535,000
* 家賃	¥ 2,960,000
* 通信費（国内／国際電話、FAX、切手、送料）	¥ 346,622
* コピー機、FAX レンタル料	¥ 240,566
* 消耗品、事務用品	¥ 29,961
* 資料作成費	¥ 218,259
* 外注費（販売用書籍、販売物等製作費）	¥ 64,260
* 外部委託費	¥ 620,000
* 交通費、宿泊費	¥ 249,820
* 会議費	¥ 214,982
* 備品費	¥ 116,953
* 雑費	¥ 31,000
* 銀行／振込／両替手数料	¥ 216
* 次期繰越金	¥12,249,123
計	¥ 32,846,317

2018年RFJ事業報告書

2018年支援金計・・・・・・・・・・・・・・・・・・10,899,555円

1. 熱帯林保全事業

支援対象地域周辺の加速度的な開発の影響で、雨季に従来の雨量が望めず熱帯林の乾燥化が深刻な問題となっている。この状況を回避する一環として、現地住民であるインディオの若者(カヤポ族、ジュルーナ族)が中心となり、「消防団」をブラジル人の専門家(マトグロッソ州消防署勤務マリアーノ中佐)指導の下、結成し、熱帯林を守る目的とする消火防火事業である。2018年8月、約40日間シンゲーインディオ国立公園のほぼ中央に位置する熱帯林監視場所であるピアラスに14集落から招聘された約50名の消防士が消火、防火の講習やトレーニングを習得し、講習後は各集落へ戻りパトロール等の監視体制を組織し強化した。その結果、消防団が存在するこの地域での火災は最小限に止められた。この事業に係る全ての資金援助を行った。

2. 経済自立支援事業

支援対象地域内では未だ貨幣制度が確立していないが、数年後はこの制度導入が必至である。恵まれた自然環境は多種多様な植物群の宝庫であり、この恵みを頂き養蜂事業が始まった。4集落約10名の養蜂士がブラジル人養蜂専門家ウエメルソンの指導の下、技術を習得。外部への市場と流通の確保に必要な蜂蜜の商品認定証やクリアーするための諸条件のハードルは高く、まず蜂蜜作業場の規定に合わせた建設が必要となった。既にマチプ族の集落では完成したが、カラバラ族の集落において2018年9月に建設が終了し、2部族は外部出荷の準備に入った。2019年8月には実現する予定である。経済自立を目的とした当事業は居住地域の環境を維持し、尚且つ高品質の蜂蜜を外部に紹介する良い機会になると確信する。

3. 先住民伝統文化継承事業

カヤポ族リーダー、メガロンが伝統文化継承を目的とするモデルケースの集落建設の発案を数年前から開始したが、様々な理由で未だ実現するには至っていない。インディオの文化、知恵を次世代に伝授することは、インディオのアイデンティティーを持つ上で重要なことである。今回も候補地を探すための燃料費や運搬費の支援をした。ブラジル社会において、従属することなく共生をしていくには、インディオの工芸品等の販売を通し外部に理解を求めていくことも重要である。

4. 医療支援事業

シンゲー地域の住民が緊急に対応しなければならない状況に陥った時の医薬品代、治療費等を支援した。

5. 現地視察諸経費

国際航空運賃、ホテル代、食費、ブラジル国内交通費等。現地調達支援物資購入、先住民集落滞在に必要な備品費。

6. 雑費

海外送金手数料、ビザ発行費、健康診断作成費、ブラジル連邦警察への特別ビザ作成費等。